

編集後記：先日、英国ケンブリッジで開催された力学コアに関する研究会で、デジタルフィルタ初期化で知られる Peter Lynch 教授 (University College Dublin) にお会いする機会を得ました。数値予報の歴史にも詳しい Lynch 教授は、Charney らが行った最初の数値予報を Nokia の携帯電話で再現されています (Lynch and Lynch 2008)。ENIAC ならぬ PHONICAC だそうです。今となつては旧式となった Nokia の携帯電話ですが、ECMWF 最初のスパコン CRAY-1 と同程度の性能だそうです。

さて、日本の数値予報の歴史については、古川武彦さんのご著書 (杉 正人「天気」2012年 6 月号 p.

518) がありますが、「天気」にも数値予報前夜の活発な動きが克明に記録されています。例えば、故・栗原宜夫先生の報告 (1954年12月号) には、東大、中央気象台、気象研約30名が一週間か二週間に一度研究会を開いていたとあります。当時の熱意に驚かされると同時に、「天気」は学会活動を記録する役割を持っていることを再認識しました。

現在、会員の皆様も活発に活動されていると思います。「天気」に掲載されれば、歴史として残ります。今後とも、内外の動向や調査研究・開発の成果をご投稿いただければ幸いです。

(榎本 剛)